24時制の時代來らん

時刻の「午前」や「午後」の區別を廢止して，一日24時間を續けさまに呼ぶ『24時制』は，西暦 1884年，米國ワシントン市で全世界 25ヶ國の天文家が集つて會議した時に（日本は參加せず），

（1） 日附けの變り目を正午でなく，夜半にすること．

（2） 24時制を用ゐること

の二つを決議して以來の問題である．日附けを夜半にすることは，去る1925年頃から天文家の方でも採用することになつた．24時制は歐洲大陸で漸次用ゐられるやうになつたが，今尙ほ英米二國では之れを用ゐてゐない（日本も其の通り）．ところが，英國では1919年に內務省 (Home Office) に Stonehaven Committee なる委員會が組織されて，此の 24時制が推奬されたが，未だ實行の法令が出るまでには至らなかつた．

近年，1931—1932兩年に，英國の多くの鐵道會社が24時制に贊成の聲明をしたが，1932年，英國貴族院で Earl of Lucan といふ人が，內務省の代表として立ち，「民衆一般は時制の變更を希望せず」(the public has not shown that it wants the change) と發表したことがある．ところが，昨 1933年の12月7日に英國貴族院で Lord Newton が立つて，Stonehaven Committee の決議を實行するやうに提議した，それ以來，いよいよ英國の上下でも此の問題について深い注意を拂ふやうになり，今1934年 1月31日の大英天文協會の例會では此の24時制採用に贊成の意を表した．其の他，グリニチ天文臺長 H. Spencer Jones 博士や，ロヤル天文學會長 F. J. M. Stratton 博士も，此の案に贊成の旨發表してゐる．從つて，保守的といはれる英國でさへ愈々 24時制を用ゐるのは，もはや疑ひ無いこととなつた．すると，殘るは日本と米國とだけ，之れも早晩贊成せざるを得なくなるだろう．